

新学習指導要領、

どう変わるか

講演会プログラム

開会挨拶.. 和田敦彦氏

(早稲田大学教育総合研究所所長／教育・総合科学学術院教授)

基調提案.. 佐藤隆之氏

(早稲田大学教育総合研究所副所長／教育・総合科学学術院教授)

1. 総論.. 学習指導の「要領」はどこか

根津朋実氏 (早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

2. 国語.. 「文学国語」の使い方―新学習指導要領実施を見ずえて

五味渕典嗣氏 (早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

3. 社会.. 新科目「歴史総合」と「公共」の可能性について

近藤孝弘氏 (早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

4. 算数・数学.. 算数・数学におけるプログラミング教育

山本 光氏 (横浜国立大学教育学部教授)

5. 外国語活動.. 外国語活動と外国語科の考え方

原田哲男氏 (早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

日時：2020年12月12日（土）13：30～17：00

実施：オンライン開催（Zoomウェビナー使用）

13：10から入室可能。参加費無料。

下記URLから、登録・ご参加ください。

https://zoom.us/webinar/register/WN_nZU7LflgQmajidYfn9fcVg

主催：早稲田大学教育総合研究所

共催：早稲田大学教育学部、大学院教育学研究科、教職支援センター

お問い合わせ：早稲田大学教育総合研究所 TEL：03-5286-3838 E-mail：IASE@list.waseda.jp

教育総合研究所 教育最前線講演会シリーズ31 新学習指導要領、どう変わるか

【講演概要】

平成29年度改訂の新学習指導要領が、移行期間を経ていよいよ実施される。今年度（2020年度）の小学校に始まり、2021年度は中学校、2022年度からは高等学校において年次進行で実施の運びとなる。新型コロナウイルス感染症の蔓延により十分に実施できる状況にはなく、まずは授業時数を確保し、学力格差を生まないようにすることが先決となっている。とはいえ、新学習指導要領が現実に授業に生かされていく以上、この先を見すえて、どうそれを実践していくかということも忘れてはならないであろう。

本講演会は、学習指導要領の改訂という変革期を迎えるにあたり、コロナ渦の現状をふまえて、何が、どのように変わるのかを検討し、学校教育の改善に寄与することを目的とする。

今次の改訂においては、周知の通り「アクティブラーニング」が改革の主眼として脚光を集め、「主体的・対話的で深い学び」を授業改善の方法として行うことになっている。それを軸として、学習の基盤となる「資質・能力」（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）、「社会に開かれた教育課程」、カリキュラム・マネジメントといった、新たな用語や概念を用いて教育課程が再編された。何がどのように変わるのかということ、まずはそのような大枠に注目して総括的に検討する。その上で、教育課程編成上とくに大きな変更があり、関心も高いと思われる教科や学習をいくつか取り上げる。教科については国語科と社会科に注目する。高等学校において国語科では、必修科目「国語総合」が「実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目」としての「現代の国語」と「上代から近現代にかけて受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目」としての「言語文化」に分けられ、選択科目として「国語表現」「古典探究」に「論理国語」と「文学国語」が新たに加えられることになった。社会科では「公共」、「地理総合」、「歴史総合」が新設された。新たな取り組みとしては、小学校5・6年生で教科化された外国語活動、やはり小学校で導入されることになったプログラミング学習について検討する。

《講演会プログラム》

日時：2020年12月12日（土）13:30～17:00

会場：zoomウェビナーによるオンライン開催

開会挨拶 和田 敦彦（早稲田大学教育総合研究所 所長 / 教育・総合科学学術院教授）

基調提案 佐藤 隆之（早稲田大学教育総合研究所 副所長 / 教育・総合科学学術院教授）

講演

提案1. 根津 朋実（早稲田大学教育・総合科学学術院教授） **【総論】**

提案2. 五味 淵 典嗣（早稲田大学教育・総合科学学術院教授） **【国語】**

提案3. 近藤 孝弘（早稲田大学教育・総合科学学術院教授） **【社会】**

提案4. 山本 光（横浜国立大学教育学部教授） **【算数・数学（プログラミング学習）】**

提案5. 原田 哲男（早稲田大学教育・総合科学学術院教授） **【外国語活動】**

— — — 休憩 — — —

質疑応答・討論

総括（総合司会 佐藤 隆之）

主催：早稲田大学教育総合研究所

共催：早稲田大学教育学部、大学院教育学研究科、教職支援センター

1. 【総論】学習指導の「要領」はどこか

根津 朋実 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

学校教育で「学習指導要領」は、しばしば見聞きする言葉です。各学校が編成する教育課程の大綱的基準で約10年に一度改訂（定）され教科書検定の基準で各種入試の範囲にあたり等々、学校教育に大きな影響を与える公式文書です。その歴史や重要性から、「国民形成の設計書」（水原克敏）とも評されます。今回は2017（平成30）年以降に告示された学習指導要領について、学習指導の「要領」を「総論」として報告します。

2. 【国語】「文学国語」の使い方——新学習指導要領実施を見すえて

五味 淵 典嗣 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

この間、高校国語新学習指導要領の科目編成と内容をめぐって各種メディアやシンポジウム等で、さまざまな批判が積み上げられてきた。だが、現時点で重要なのは、そうした批判を実際の国語の授業にどう接続していくかではないか。今回の「提案」では、新設された選択科目「文学国語」に焦点を当てる。結果的に「論理」と「文学」を切り分けてしまう思考の枠組みに抗いながら、「文学国語」をどうデザインしていくかを考えたい。

3. 【社会】新科目「歴史総合」と「公共」の可能性について

近藤 孝弘 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

歴史ならびに公民科目に関する限り、高校新学習指導要領は、教育課程行政はもちろん教科教育に関する知が抱える課題をよく表しています。政権の価値観が批判的・学問的な思考を疎外している点に加え、多くの授業時間を要する、知識の活用を重視した学力観の導入にもかかわらず、内容の削減が不十分なことは新課程の実現を困難なものとしています。今回の改革は、拙速という評価をもって記憶されることになるのではないのでしょうか。

4. 【算数・数学（プログラミング学習）】算数・数学におけるプログラミング教育

山本 光 氏（横浜国立大学教育学部教授）

「なぜプログラミング教育を小学校から実施するのか？」という疑問は、コロナ禍における世界規模での変化を目の当たりにした我々にとって過去のものとなった。これからは、「なにをどうプログラミング教育として展開していくか？」といった発想が必要である。教科の中でのプログラミング教育では、プログラムを教えるのではなく、教科のめあてをプログラムで学び、深めることが重要である。そのための具体例を報告する予定である。

5. 【外国語活動】外国語活動と外国語科の考え方

原田 哲男 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

小学校では3、4年生で外国語活動、5、6年生で外国語科が導入され、また小中高全てのレベルで、「話すこと」を二つ（「やり取り」と「発表」）に分けて4技能から5技能になった。さらに、高校では英語表現が「論理・表現」という科目名に変更になり、英語による思考力・判断力を養成しながらの表現力の強化が期待されている。この提案では、どのように学習指導要領を読み込み、いかに教育実践に活かすかを考えてみたい。